

## 1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

\*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段( )は在庫水準前期比(%) (自社所有分に限る。  
点線内は全鉄連による予想数字( )内は誤差率=予想値÷実績

平成31年2月末	令和元年5月末見通し	令和元年8月末見通し	令和元年11月見通し
+62千トン 〔 2330千トン 〕 (102.7%)	+70千トン 〔 2375千トン 〕 (101.9%)	-25千トン 〔 2350千トン 〕 (98.9%)	-29千トン 〔 2321千トン 〕 (98.8%)
2270千トン(97.4)	2400千トン(101.1)	*	*

## 2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成31年3月末	令和元年6月末	令和元年9月末見通し	令和元年12月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は90,300円で前年比+4,000円、前期比±0円。メーカーの相次ぐ設備トラブルで出荷遅れが生じ、需給のタイト化を懸念していた。しかし、建築需要は堅調なものハイテンションボルトやコラム特に大径角の入手難により中小物件の工期遅れが生じ、予想以上に荷動きが落ちた。全体的に需給はタイトどころか逆に緩んだ。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は90,300円で前年比+3,100円、前期比±0円。メーカーからの入荷が好調なため、在庫は月を追う毎に増加し、在庫過多の状況となった。荷動きは低調だったことに加え、某電炉メーカーの値下げ発表が更に追い討ちをかけ市況は弱含みとなり収益は悪化傾向である。流通はメーカー動向に注視しながら、なんとか市況維持に努めた。	市中在庫の過多の状況が続いており、思ったほど在庫が減少していない。市況は弱含みだが、なんとか耐えて維持していきしかぬい。流通の採算悪化が懸念される。8月は夏休みムードに陥ったことにより全体的に落ち込んだように思われる。9月に入っても、需要は落ち着いており、消費増税の駆け込み需要も全くない。	大きな落ち込みはないが、昨年のような、秋需の盛り上がりは感じられない。土木物件が動き出し、建築需要は底堅いが、中小物件は少ないように感じられる。凶面遅れによる工期遅れ、ハイテンションボルト不足の影響がいまだ残っている。高炉メーカーと電炉メーカー間で二極化しており、流通は商売しづらい状況になる。今後どのような市況動向になるのか注視していく必要がある。

## 3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流通調査8月結果によれば、8月在庫量は243,909トン前月比-3.2%、前年同月比-1.1%、在庫は前月比減、前年同月比とも減少しました。在庫率は144.7ポイントと先月より上昇しました。仕入量も抑えられています。夏季休暇の稼働日数減により販売量は著減しています。日割りにすると前月と同じレベルですが、地区により8月大きく落ち込んだ品種もあり、全般的に減少しているように感じられます。

## 4. 大阪の動向

(大阪)スクラップ市況の底打ちが微妙な感じとなり、客先も模様眺めに徹しており、直送、現物ともに商いに精彩を欠いている。自動車はメーカーによりまだら模様で好不調が分かれている。工作機械、産業機械ともに中国向け輸出が足を引っ張り減少傾向。メーカーからの入荷は順調だが、今一つパツとしない状況が続いている。本格的な秋需期を控え、力強い需要を期待したいところだが、中小鉄骨物件は、ハイテンボルト不足の影響がまだ尾を引いているのか動きが鈍い。一方、ここへきてようやく土木案件も動き出してきたので、先行きに期待した。